

CBAP®合格体験記(V3 日本語CBT試験)

明治安田システム・テクノロジー株式会社 後藤 羊奈子

※2026年2月時点

受験の動機 – 個人の経験から、体系知による「再現性」を求めて –

私は生保系IT企業にて、ビジネス側の意図を深く汲み取り、現場に即したIT仕様へと落とし込むビジネスアナリスト(BA)としての役割を担ってきました。

日々の業務の中で強く感じていたのは、「システム開発の本質的な価値は、ユーザーのビジネス価値に直結していなければならない」ということです。しかし現実には、上流工程の進め方は担当者個人のスキルや現場独自の慣習に依存しており、手法の属人化にもどかしさを感じていました。

BAとしてのキャリアを積み、自身の経験を振り返る機会が増えたことで、「より確実かつ再現性を持って、ビジネスに貢献できる手法はないか」という問いが一層、切実なものとなりました。模索する中で出会ったのが、世界中の実務知見が体系化された『BABOK®』です。これまでの実務経験を客観的に見つめ直し、グローバルスタンダードな知見を携えたスペシャリストへと昇華させたいと考え、その最高峰であるCBAP®への挑戦を決意しました。

受験までのスケジュール – 好機を逃さず、2ヶ月の短期集中で合格へ –

折良く、社内でBABOK®をテーマにしたEラーニングを受講できる機会に恵まれました。この機を逃さず、学習の勢いをそのままに集中して取り組むのが最善と考え、約2ヵ月という短期間での挑戦を決めました。

時期	取り組み内容	ポイント
これまで	BABOK®に関するEラーニングを受講	–
1ヶ月目	CBAP®受験対策講座(E-PROJECT)受講 海外模擬問題を収集 受験申請	BABOK®全体像の把握と用語の理解
2ヶ月目	Eラーニング模擬問題・海外模擬問題とBABOK®の反復 出題に関する情報収集	知識の定着 ペース配分の検討
直前期	苦手分野の補強 ナレッジエリアの総復習	アウトプット訓練

申請準備・手続き – 監査(Audit)を見据えた整合性とAI活用術 –

幸いにも監査(Audit)対象にはありませんでしたが、いつ選出されても冷静に対処できるよう、業務経験時間の入力には実務との整合性を強く意識しました。また、ハードルの高い業務内容の英文作成については、AIを効率的に活用して精度を高めています。

項目	ポイント
専門教育	修了証に記載されたコース情報(英文名など)を正確に使用する
職務経験時間	審査該当となっても、上司(Contact)が内容を即座に理解・判断できるよう、実際の実務実態との整合性に留意する
職務経験内容	5W1Hを意識し、AI(翻訳ツール等)も活用しながら、制限文字数(254文字)以内の簡潔な英文を作成する
日本語選択の注意	PSIサイトの初期画面で「日本語受験不可」と表示される場合があるが、そのままCBAP試験を選択して進めば、後続の手続き画面で「日本語」が選択可能
受験方法	安定した通信環境の確保やトラブル対応のリスクを考慮し、テストセンターでの受験を推奨

BABOK®の膨大な知識体系を「腹落ち」させるカギは、情報の整理と独自の解釈にあると考えます。私は、自作メモを用いた知識の構造化で土台を作り、AIとの壁打ちによる概念の具体化により解像度を高めることで、BAの思考プロセスを自分の中に定着させました。

短期間で合格を勝ち取るための教材の位置づけと、学習を習慣化させるためのポイントをまとめます。

【知識エリアの解像度を高める「構造的学習」】

使用教材	BABOK®ガイド	EEP認定Eラーニング(模擬問題)
位置づけ	知識の源泉(バイブル) 常に手元に置き、問題演習の根拠確認に使用	アウトプットの主軸 BABOK®の記述を実戦形式で理解するためのツール
重点範囲	第3～8章:知識エリアの核心として精読 第10章:テクニックの図表を中心に理解	全500問を7～8周実施 最終的に正答率95%以上を安定させる
具体的な学習法	<p>【3～8章】「自作メモ」による構造化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目:全体像を把握するための図解作成 ・2回目:入出力(I/O)と各要素のつながりを意識した要点の書き出し <p>【10章】優先順位をつけた深掘り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬問題やIIBA本部サイトのCBAP®サンプル問題に紐づく頻出テクニックを優先し、AIや検索で補足 <p>【2・9・11章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深追いはせず、用語確認など前提知識に留める 	<p>【BABOK®への徹底回帰】</p> <p>間違えた箇所は必ずガイドの該当箇所へ立ち返る</p> <p>【AIとの壁打ちによる言語化】</p> <p>難解な概念やテクニックの補足説明をAIに依頼し、自分が納得できる言葉に置き換えて理解を深める</p>
ポイント	<p>「実務とのリンク」</p> <p>過去の案件やプロジェクトの場面に当てはめ、「あの時の判断はこれだったのか」と実体験として腹落ちさせる</p>	<p>「継続による共感」</p> <p>最初は苦戦しても、3～4周と繰り返すうちに、BAとしての思考プロセス(マインドセット)に自然と共感できるようになる</p>

【未知の問いへの対応力を磨く「広域演習」】

使用教材	海外模擬問題(日本語訳/JPNPDF)
位置づけ	演習量の確保と出題パターンの網羅 国内Eラーニングを補強し、初見の問題への対応力を養う
取り組み範囲	合計約1,500問を1～2周 ・最新のセットから優先的に着手 ・2周目は間違えた問題を中心に効率良く復習
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・圧倒的な問題数により、BABOK®の細部まで網羅できる ・本試験特有の「言い回し」や「問い方」に近いので、実戦感覚を養える(独特な日本語訳に対する耐性がつく)
考慮点と対策	<p>【課題:解説不足・誤訳・解答の疑義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解説が不十分な場合は、英語版の解説を翻訳しBABOK®の記述と突き合わせ ・解答に疑問がある差異は、AIに問題文と解答を投げ、「BABOK®のどのタスクに基づいた出題か」「なぜこの選択肢が最適か」を徹底的に言語化させて納得感を醸成

【試験当日のレポート】

項目	内容とアドバイス
受付・本人確認	30分前から受付開始(それ以前はビル外待機が必要な場合あり) 会場によっては他試験の窓口も設置されているため、必ず「PSI窓口」であることを確認 本人確認は運転免許証でスムーズに完了
持ち込み制限	荷物は全てロッカーへ 時計、ハンカチ、目薬等も不可。メガネも外してチェックされる厳重なセキュリティ
試験環境	着席後、白紙2枚と鉛筆2本が配布され、初期画面上の同意チェックと開始ボタンで即開始 白紙は計算用だけでなく「自信のない問題番号のメモ」に活用
画面・機能	フラグ機能は押し間違いや回答漏れリスクを考慮し、あえて未使用 計算用の電卓は画面上にあります。マウス操作のみのため慣れが必要
日本語訳対策	和訳に違和感がある際は、プルダウンで英語表示に切り替えて確認 特にDFD等の専門用語は、原文確認が誤答防止に有効
合格発表	終了後のメッセージが非常に小さく、一見分かりづらいので注意 「合格をお伝えできて嬉しい」の一文を見つけた時は、半信半疑で画面を三度見

【戦略編：時間配分と回答】

・問題構成の把握

前半40問強がケース問題(長文)、後半80問弱が単発問題の構成でした。

・ペース配分

「前半の長文に時間を使い、後半で巻き返す」作戦。

長文はまず設問を読み、本文を全て読まずに解答可能か判断することで時間を節約しました。

・見直しの精度

1巡目終了で残り40分、2巡目終了で残り8秒。

最後まで諦めず、2択で迷った際は「よりBABOK®の思想(マインドセット)に近い方」を選択しました。

・メンタル維持

開始2時間(80問付近)で集中力が途切れましたが、「ここが踏ん張りどころ」と自分を鼓舞してやり切ることが重要です。

合格後の変化とメッセージ

【合格後の変化】

試験を通じて、自身の視点が社内業務から「ビジネスアナリシスのグローバルスタンダード」へと大きく広がりました。IIBA®日本支部をはじめとする社外コミュニティへの関心も一層高まり、体系的な学びを得たことで、これまで以上に広い視野で物事を捉えられるようになりたいと、気持ちを新たにしています。

【これから受験する方へのメッセージ】

申請から試験当日まで、一貫して「戦略」と「準備」の重要性を痛感した受験期間でした。BABOK®の広範な知識体系も、丁寧に紐解き、粘り強く向き合うことで必ず合格へと繋がります。私のこの経験が、高い志を持って挑戦される皆さまの確かな一助となれば幸いです。

2026年2月27日

後藤 羊奈子